

## 慶安五年刊『訳和和歌集』翻刻と解題 附校異 (五)

内野, 優子  
西南学院大学非常勤講師

<https://doi.org/10.15017/8962>

---

出版情報 : 文献探究. 43, pp.72-100, 2005-03-31. 文献探究の会  
バージョン :  
権利関係 :

慶安五年刊『訳和歌集』翻刻と解題 附校異 (五)

内野 優子

一 『訳和集』の諸本

前号より、歌番号によって十四本の『訳和集』が照合できる『訳和集』諸本対照表」を掲載中であるが、昨年の和歌文学会（6月例会）における那須陽一郎氏の口頭発表で、新たに二本の『訳和集』の所在が確認できたため、今一度、那須氏の分類方法に拠りながら諸本を列挙・整理し、前号掲載分の補足をおきたい。

《第一系統》

【一類】

- ・ 随心院所蔵『譯和倭歌集』（室町後期写） 《略号「随」》
- ・ 日本大学総合学術情報センター所蔵『譯和々歌集』（室町後期写。下巻を欠く） 《略号「日」》

【二類】

- ・ 東京国立博物館所蔵『譯和歌集』（江戸中期写） 《略号「東」》
- ・ 天理大学附属図書館 吉田文庫所蔵『譯和々歌集』（江戸中期写） 《略号「天」》

- ・ ノートルダム清心女子大学附属図書館 黒川文庫所蔵

『譯和集』（江戸中期写） 《略号「ノ」》

- ・ 龍谷大学大宮図書館 禿氏文庫所蔵『譯和集』（江戸中期写）

《略号「龍」》

- ・ 島原図書館 松平文庫所蔵『釋和和歌集』（江戸初期写）

《略号「松」》

- ・ 水府明徳会 彰考館文庫所蔵『譯和倭歌集』（書写年代不明。『法華経』卷一・八に相当する部分を欠く） 《略号「彰」》

《略号「書」》

- ・ 宮内庁書陵部所蔵『釈和和歌集』（江戸初期写） 《略号「書」》

- ・ 国立公文書館 内閣文庫所蔵『譯和和歌集』（江戸初期写）

《略号「内」》

- ・ 慶応義塾大学附属研究所 斯道文庫所蔵『譯和集』

（江戸初期写。下巻を欠く） 《略号「斯」》

- ・ 塚田晃信氏所蔵『譯和々歌集』（神作光一氏旧蔵本）

《略号「塚」》

- ・ 長谷寺 豊山文庫所蔵『法華和歌集』（江戸中期写。抄出本）

《略号「長」》

《第二系統》

【慶安五年刊本A】

・国文学研究資料館所蔵（内題）『譯和和歌集』《略号「慶A」》

【慶安五年刊本B】

・駒澤大学図書館所蔵『訳和和歌集』《略号「慶B」》

【承応二年刊本A】

・京都大学附属図書館所蔵『法花訳和集』《略号「承A」》

・立正大学大崎図書館所蔵『法花訳和集』

・立教大学人文科学系図書館所蔵『法花訳和集』

・龍谷大学大宮図書館 禿氏文庫所蔵『法花訳和集』

・上田市立図書館 藤廬文庫所蔵『法花訳和集』（全五冊の内、

三・四・五の三冊のみ）

【承応二年刊本B】

・国文学研究資料館所蔵（内題）『法花譯和集』《略号「承B」》

・叡山文庫所蔵『法花訳和集』<sup>注三</sup>

・静嘉堂文庫所蔵『法花訳和集』（刊本の写し。江戸後期）

（その他）

・徳島県立図書館 森文庫所蔵（承応二年刊。全五冊の内、五の

一冊のみ。A Bの区別は不明）

以上の中で、新たに所在が確認できたものは、第一系統【一類】に属する随心院所蔵本と、【二類】に属する慶応義塾大学附属研究所斯道文庫所蔵本である。随心院所蔵本（以下「随」と称す。）については、海野圭介氏によってその書誌的概要が紹介されている。<sup>注四</sup>上下巻を完備する写本としては現時点で最古写本と位置づけられており、総歌

数は502首。上巻末には、

求主暁海

右此譯倭々集者實海法印諸集見／出注給乍去變々不可然也此  
寫本當地／厩橋細井玄修所持之本也天文年中實／海法印武州  
河越就乱入厩橋地御移／之時分彼与玄修出合有御一覽加除誠  
／々正本也彼實海御真筆與書如斯

予所編輯之譯和々歌集之中法華部歌／可加注之由任於檀命應厥所  
請于皆梗齋／玄修有寫模之惘望仍書兩卷授与之畢

于皆天文癸巳佛生前一日法印實海印判有

是于時天正三年乙卯於有小菴見合申候乍／恐二宮玉蔵院法  
印慶春奉頼上下共書／之為上求菩提下化衆生也厩橋於八幡  
宮／金蓮坊 良忠求之  
（改行は／で示す。）

とあり、下巻末にもこれとほぼ同文の奥書・識語を有す。右の文中、  
太字のゴシック体の部分は、他の『訳和集』諸本には全く見られない。  
天文二（一五三三）年に実海真筆本を転写するに至った経緯と、天正  
三（一五七五）年に本書を書写したという識語をもつ「随」は、海野  
氏が述べられているように、『訳和和歌集』の成立と流伝を考える上  
で誠に興味深い。

さらに加えて注目されるのは、日本大学総合学術情報センター所蔵  
本（以下「日」と称す。）と共通する特徴が見られることである。<sup>注五</sup>『訳  
和集』諸本の歌順を比較した時、第一系統と第二系統の違いが最も顕  
著なのは、上巻の終わりの部分（前号『訳和集』諸本対照表71頁上段  
〜）、「慶A」の通し番号でいえば、231番以降にあたる。第二系統の「慶  
A」「慶B」「承A」「承B」の歌順は整然としているのに対し、第一  
系統の「書」「内」「東」「天」「ノ」「松」「龍」「彰」（「長」）は、著

しい錯綜を見せる。その第一系統の中にあつて、「日」だけが唯一、第二系統と同じ歌の配列となつていた。「随」は、この「日」の特徴と一致する。さらに「日」には、第二系統本に有つて第一系統本には無い歌が有つたり、第二系統本には無く第一系統本に有るはずの歌が無かつたりという特徴も見られたが、この点についても「随」は「日」と全く同じことがいえる。稿者は前号において、「日」を他の第一系統諸本とは別のグループに分ける必要があることを提言していたが、その後、那須陽一郎氏の発表において、第一系統諸本が【一類】と【二類】とに細分化された。稿者もこれを支持したい。「日」は、歌数264首で残念ながら下巻部分を欠くものの、現存する上巻部分で「日」と「随」の歌順を比較してみると、異同が見られるのは一箇所のみである。「日」の通し番号で162↓163↓164↓165（前号『訳和集』諸本対照表69頁下段）とある箇所が、「随」では162↓164↓163↓165となる。ここ以外の「随」の通し番号の並びは、前号に掲げた諸本対照表の「日」と同一である。共に第一系統【一類】に属する「日」と「随」二本のテキスト間の非常に近い関係がうかがい知れる。

次に、慶応義塾大学附属研究所 斯道文庫所蔵本（以下「斯」と称す。）については、前号64頁下段16行目に「一誠堂古書目録掲載本（梶井宮家旧蔵本）」として挙げていたものである。現在、斯道文庫に蔵されているこの伝本は、歌数262首で下巻を欠く。

また、前号65頁上段1行目に挙げた神作光一氏所蔵本は、現在、塚田晃信氏所蔵本（以下「塚」と称す。）となつていることを神作・塚田両氏よりご教示を受けた。塚田氏の御厚意により頂戴したコピーで本文を確認したところ、下巻末にある「右の七首和泉式部か読るとそ」と注記された七首を含め、総歌数は511首。この巻末七首の前に、「随」

「書」「内」「東」「ノ」「長」にも同様に見える奥書「予所編輯之譯和々歌集之中法花部歌可／加注解之由任於檀命應厥所請于皆梗齋玄／修有寫模之惘望仍書兩卷授与之畢／法印實海在判」を有す。<sup>注七</sup>

「斯」と「塚」についても、上巻部分の歌順について調査したところ、この二本は、第一系統【二類】本と同じ特徴が見られた。<sup>注八</sup>第一系統特有の歌が見られ、<sup>注九</sup>上巻の終わりの部分は、【二類】本の「書」「内」「東」「天」「ノ」「松」「龍」「彰」（「長」と同様）に歌順が錯綜している。第一系統の中で【二類】本の「随」「日」のみが有する歌は、他の【二類】本と同様、「斯」「塚」にも見られない。

## 二 『訳和集』諸本対照表

前号にひきつづき、「慶A」261番歌から最後まででの、歌番号による『訳和集』諸本対照表を載せる。第一系統では、下巻部分に相当する。凡例は前号の通りであるが、本号からは、下巻部分を欠く日本大学総合学術情報センター所蔵本（略号「日」）に代わり、随心院所蔵本（略号「随」）と、塚田晃信氏所蔵本（略号「塚」）の二本を追加し、計十五本の対照表とした。上巻のみ伝存する慶応義塾大学附属研究所 斯道文庫所蔵本（略号「斯」）は、前号の時点で所在がつかめず未見であったため、今回の諸本対照表に加えることはできなかった。また、上下巻共に完備する「随」「塚」の上巻部分についても同様で、本号は、「随」「塚」の通し番号265番からの対照表であることを予めお断りしておく。「随」「塚」「斯」の上巻部分の様相については、前章で補足した通りである。

287	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	隨
288	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	272	271	270 273	269	268	267	266	265	塚
287	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	271	270	269 272	268	267	266	265	264	書
287	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	271	270	269 272	268	267	266	265	264	內
287	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	271	270	269 272	268	267	266	265	264	東
286	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	270	269	268 271	267	266	265	264	263	天
317	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	301	300	302	299	298	297	296	295	ノ
283	281	280	279	278	277	276	275	274	273	271	272	270	269	268		267	266	265	264	263	262	松
283	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	龍
177	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	161	160	159 162	158	157	156	155	154	彰
154		152	151		150		149	148	147	146	145	144	143					142	141	140		長
282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	A 慶
284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	B 慶
284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	A 承
284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	B 承

308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	286	隨
309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	287	塚
308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	286	書
308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	286	內
308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	286	東
307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	285	天
338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	316	ノ
302		301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	*	290	289	288	287	286	285	284	282	松
304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	282	龍
198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	176	彰
165	164					163	162			161	160	159		158		157		156	155	153		長
304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	A 慶
306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	B 慶
306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	A 承
306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	B 承

329	328	327	326	325	324	323		322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	隨
330	329	328	327	326	325	324		323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	塚
329	328	327	326	325	324	323		322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	書
329	328	327	326	325	324	323		322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	内
329	328	327	326	325	324	323		322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	東
328	327	326	325	324	323	322		321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	天
359	358	357	356	355	354	353		352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	ノ
322	321	*	320	319	318	317		316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	松
325	324	323	322	321	320	319		318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	龍
218	217	216	215	214	213	212		211	210		209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	彰
178		177	176		175	174		173	172				171		170			169	168	167	166	長
326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	A 慶
328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	B 慶
328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	A 承
328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	B 承

351	350	349	348	347	346	345	343	344	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	隨
352	351	350	349	348	347	346	344	345	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	塚
351	350	349	348	347	346	345	343	344	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	書
351	350	349	348	347	346	345	343	344	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	内
351	350	349	348	347	346	345	343	344	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	東
350	349	348	347	346	345	344	342	343	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	天
381	380	379	378	377	376	375	373	374	372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	ノ
344	343	342	341	340	339	338	336	337	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	松
347	346	345	344	343	342	341	339	340	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	龍
240	239	238	237	236	235	234	232	233	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	彰
		194	193		192		191		190	189		188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	長
348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	A 慶
350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	B 慶
350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	A 承
350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	B 承

373	372	371	370	369	366	368	367	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	隨
374	373	372	371	370	367	369	368	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	塚
373	372	371	370	369	366	368	367	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	書
373	372	371	370	369	366	368	367	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	內
373	372	371	370	369	366	368	367	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	東
372	371	370	369	368	365	367	366	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	天
403	402	401	400	399	396	398	397	395	394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	ノ
366	365	364	363	362	359	361	360	358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348	347	346	345	松
369	368	367	366	365	362	364	363	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348	龍
262	261	260	259	258	255	257	256	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	彰
206	205	204	203	201	202					200	199	198	197			196				195	長	
370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	A 慶
372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	B 慶
372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	A 承
372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	B 承

395	392	394	393	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	隨
396	393	395	394	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	塚
395	392	394	393	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	書
395	392	394	393	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	內
395	392	394	393	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	東
394	391	393	392	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	天
425	422	424	423	421	420	419	418	417	416	415	414	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	ノ
387	384	386	385	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	372	371	370	369	368	367		松
391	388	390	389	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	372	371	370	龍
284	281	283	282	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	彰
	223			222	221	220	219	218	217	216	215		214	213	212	211	210	209		208	207	長
392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	372	371	A 慶
394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	B 慶
394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	A 承
394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	B 承

	416	415	413	414	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	隨
	417	416	414	415	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	塚
	416	415	413	414	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	書
	416	415	413	414	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	内
	416	415	413	414	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	東
	415	414	412	413	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	天
	446	445	443	444	442	441	440	439	438	437	436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	ノ
	408	407	405	406	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	394	393	392	391	390	389	388	松
	412	411	409	410	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	394	393	392	龍
	305	304	302	303	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	彰
	240	239	237	238			236		235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225		224	長
	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	394	393	A 慶
416	415	414	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	B 慶
	415	414	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	A 承
416	415	414	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	B 承

436	345	434		433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422		421	420	419	418	417	隨
438	437	436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423		422	421	420	419	418	塚
437	436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422		421	420	419	418	417	書
437	436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422		421	420	419	418	417	内
437	436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422		421	420	419	418	417	東
436	435	434	433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422	421		420	419	418	417	416	天
468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	458	457	456	455	454	453	452 289	451	450	449	448	447	ノ
428	427	426		425	424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414		413	412	411	410	409	松
432	431	430		429	428	427	426	425	424	423	422	421	420	419	418		417	416	415	414	413	龍
326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311		310	309	308	307	306	彰
	255			254			253	252		251	250	249	248	247	246		245	244	243	242	241	長
433	432	431		430	429	428	427	426	425	424	423	422	421	420	419		418	417	416	415	414	A 慶
436	435	434		433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422		421	420	419	418	417	B 慶
435	434	433		432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422	421		420	419	418	417	416	A 承
436	435	434		433	432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422		421	420	419	418	417	B 承



458	457	456	454	455	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437	隨	
460	459	458	456	457	455	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	塚	
459	458	457	455	456	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	書	
459	458	457	455	456	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	内	
459	458	457	455	456	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	東	
458	457	456	454	455	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437	天	
490	489	488	486	487	485	484	483	482	481	480	479	478	477	476	475	474 <sup>290</sup>	473	472	471	470	469	ノ	
450	449	448	446	447	445	444	443	442	441	440	439	438	437	436	435	434	433	432	431	430	429	松	
453	452	451	449	450	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439		438	437	436	435	434	433	龍	
														335	334	333	332	331	330	329	328	327	彰
274	273	272	270	271	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259			258	257		256	長	
455	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437	436	435	434	A 慶	
458	457	456	455	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437	B 慶	
457	456	455	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437	436	A 承	
458	457	456	455	454	453	452	451	450	449	448	447	446	445	444	443	442	441	440	439	438	437	B 承	

480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	隨
482	481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	塚
481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	書
481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	内
481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	東
480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	天
512	511	510	509	508	507	506	505	504	503	502	501	500	499	498	497 <sup>292</sup>	496	495	494	493	492	491	ノ
472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	458	457	456	455	454	453	452	451	松
475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	458	457	456	455	454	龍
																						彰
295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275		長
477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	458	457	456	A 慶
480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	B 慶
479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	458	A 承
480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469	468	467	466	465	464	463	462	461	460	459	B 承

502	501	500	499	498	497	496	495	493	494	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	隨
504	503	502	501	500	499	498	497	495	496	494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	塚
503	502	501	500	499	498	497	496	494	495	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	書
503	502	501	500	499	498	497	496	494	495	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	内
503	502	501	500	499	498	497	496	494	495	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	東
502	501	500	499	498	497	496	495	493	494	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	天
534	533	532	531	530	529	528	527	526	525	524	523	522	521	520	519	518	517	516	515	514	513	ノ
494	493	492	491	490	489	488	487	485	486	484	483	482	481	480	479	478	477	476	475	474	473	松
497	496	495	494	493	492	491	490	488	489	487	486	485	484	483	482	481	480	479	478	477	476	龍
																						彰
315	314	313	312	311		310	309	307	308	306	305	304	303	302		301	300	299	298	297	296	長
499	498	497	496	495	494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	480	479	478	A 慶
502	501	500	499	498	497	496	495	494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	B 慶
501	500	499	498	497	496	495	494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	480	A 承
502	501	500	499	498	497	496	495	494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	B 承

511	510	509	508	507	506	505																塚
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

541	...	508	507	506	505	504	503	502	501	500	499	498		龍
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--	---

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

317	316																					長
-----	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

512	511	510	509	508	507	506	505	504	503	B 慶
511	510	509	508	507	506	505	504	503	502	A 承
512	511	510	509	508	507	506	505	504	503	B 承

▽水府明徳会 彰考館文庫所蔵本（略号「彰」）は、『法華経』巻一・八に相当する部分を欠くため335番まで。

- 以上が、「慶A」の国文学研究資料館所蔵『訳和歌集』（慶安五年刊）261番歌から最後までを基準とした『訳和集』諸本対照表である。前号と同様に、右の表から確認し得えることを箇条書きにて記す。猶、比較する際、和歌を引用するテキストは、稿者が翻刻で対校本として用いている第一系統【二類】の内閣文庫所蔵本（略号「内」と、底本「慶A」）である。
- 1、「内」の通し番号で268↓269272↓270↓271↓273という歌順は、「随」「松」「龍」「長」を除く他の第一系統「塚」「書」「東」「天」（「ノ」）「彰」にも共通する特徴である。猶269272の重複は、「塚」「書」「東」「天」「彰」に見られる。
  - 2、「内」270番歌「法の水むすひし谷の苔の袖千世に幾度ぬれてほしけん」は、「松」には無い。
  - 3、「内」の通し番号で274↓275↓276↓277という歌順は、「松」では270↓272↓271↓273となる。
  - 4、「内」の通し番号で285↓287↓286↓288という歌順は、他の第一系統本にも共通する特徴である。（抄出本「長」には「内」285番歌にあたる歌は無い。）
  - 5、「松」290番歌の次の＊は、「内」295番歌「霧晴て行末照す月かけをよもさらしなと何思ひけん」の歌が無く、実海注のみ残存する。
  - 6、「内」307番歌「みすきかぬ法の塩あひの国にきて心を引くや和哥浦人」は、「松」には無い。
  - 7、「内」320番歌「はかなしと何思ひけんぬめる夜の夢そ真のしるへ成ける」は、「彰」には無い。
  - 8、「慶A」319番歌「さまく／＼にたえなる花そ散まかふ法をたもては春の夜の夢」は、第一系統本には無い。
  - 9、「松」320番歌の次の＊は、「内」327番歌「たらちねを和かの浦そとみしまえや子は又老の波をかけゝる」の歌が無く、実海注のみ残存する。
  - 10、「内」の通し番号で342↓344↓343↓345という歌順は、抄出本「長」を除く他の第一系統本にも共通する特徴である。
  - 11、「内」の通し番号で365↓367↓368↓366↓369という歌順は、抄出本「長」を除く他の第一系統本にも共通する特徴である。
  - 12、「内」の通し番号で368↓366とある箇所は、「長」では202↓201となる。
  - 13、「内」381番歌「行末になからの橋の朽すして尽る世もなく人を渡さん」は、「松」には無い。
  - 14、「内」の通し番号で391↓393↓394↓392↓395という歌順は、抄出本「長」を除く他の第一系統本にも共通する特徴である。
  - 15、「内」の通し番号で412↓414↓413という歌順は、他の第一系統本にも共通する特徴である。（抄出本「長」には「内」412番にあたる歌は無い。）
  - 16、「慶B」「承B」416番歌「三度うけ三たひ譲し言のはの末の代長くかけて守らん」は、第一系統本及び第二系統本の「慶A」「承A」には無い「能星」の補入歌である。『文献探究』40号・平成14年・拙稿61頁、同42号・平成16年・72頁項目5を参照されたい。）
  - 17、「ノ」452番歌は、他本には無い「赤染衛門」の補入歌である。猶この歌は、「ノ」上巻末に補入されている赤染衛門の歌二十八首

中の一首、289番歌と重複する。

- 18、「内」434番歌「まれなる法を聞つる道しあれば夢を限と思ひぬるかな」は、第一系統本「随」「松」「龍」「長」と第二系統本には無い。

- 19、「ノ」474番歌は、「ノ」上巻末に補入されている赤染衛門の歌二十八首中の一首、290番歌と重複する。

- 20、「内」444番歌「身をかへてあまたに見えし姿こそ人をもらさぬ誓成けれ」は、「龍」には無い。

- 21、「内」の通し番号で454↓456↓455↓457という歌順は、他の第一系統本にも共通する特徴である。「松」<sup>445</sup>番は、詞書と詠者名のみ残存する。）

- 22、「ノ」497番歌は、「ノ」上巻末に補入されている赤染衛門の歌二十八首中の一首、292番歌と重複する。

- 23、「書」「内」<sup>478</sup>番は、詠者名と実海注のみ残存する。このような「書」と「内」の特徴は、前号（72頁項目6、73頁項目15）にも見られた。第二系統【二類】本の中でも特に「書」と「内」のテキストは、非常に近い関係にあることがわかる。

- 24、「内」の通し番号で493↓495↓494↓496という歌順は、他の第一系統本「随」「塚」「書」「東」「天」「松」「龍」「長」にも共通する特徴である。ただし、第一系統の中で唯一「ノ」だけは錯綜がない。

- 25、「龍」（498↓507番）「慶B」（503↓512番まで）「承A」（502↓511番まで）「承B」（503↓512番まで）には、「十界分」（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人道・天道・声聞・縁覚・菩薩・仏界）の歌が有る。この増補部分は、同じ第二系統でも「慶B」と「承A」「承B」では異同が見られる。<sup>注七</sup>第一系統の「龍」は、「慶B」と同じ歌の

本文をもつ。「龍」504・507番歌に若干の異同あり。）

- 26、「龍」508↓541番まで、他本には見られない法華経歌三十四首が有る。

- 27、「塚」505↓511番まで、「右の七首和泉式部か読るとそ」と注記された歌七首が奥書の後に有る。

- 28、「長」316 317番歌は、書写者 信恕の歌である。  
本稿の『訳和集』諸本対照表で確認できたことは、以上の28項目である。

## 注

(一) 口頭発表『訳和歌集』の諸本について（和歌文学会、平成16年6月19日、於 日本大学）

(二) 長谷寺 豊山文庫所蔵本は、抄出本であるが、前号（74頁下段項目38を参照されたい。）において指摘したように、第一系統本が基になっていることが確認でき、さらに、日本大学総合学術情報センター所蔵本とは歌順・歌の有無において別の傾向が見られることから、本稿では第一系統の【二類】に分類した。

(三) 前号『文献探究』42号・平成16年3月）65頁上段21行の叡山文庫所蔵『訳和歌集』は、『法花訳和集』の誤りです。お詫びをもって訂正いたします。

(四) 海野圭介「随心院門跡と歌書」（伊井春樹先生御退官記念論集刊行会編『日本古典文学史の課題と方法』二〇〇四年・三月、和泉書院）145頁〜147頁

(五) 以下の記述は、海野圭介氏の御厚意で賜った、随心院所蔵本の写真版のコピーに基づき調査した結果である。

(六) 前号73頁下段17行目〜74頁6行目で稿者は次のように指摘した。

29、「内」番号235↓237↓242↓240↓241↓○↓246↓244↓233↓○↓232↓243↓247  
↓245↓249↓238↓○↓236↓234↓248↓239↓250↓257↓252↓251↓256↓253↓  
260↓258↓259↓254↓255↓263↓261↓262(○は歌が無い箇所)の歌順は、  
『訳和集』第一系統と第二系統との歌順を比較した時、最も異同の

激しい箇所である。「書」「内」「東」「天」は完全に歌順が一致する。また、「ノ」「松」「龍」「彰」も部分的に歌の有無(項目31、

33、35参照)があるものの、基本的には「書」「内」「東」「天」の歌順と共通である。但し、抄出本の「長」はさておき、第一系統の中で「日」だけが、歌順の錯綜がなく整然としている。さらに、

第二系統に有って第一系統には無い歌(項目27、30、32参照)があったり、逆に、第二系統には無く第一系統に有るはずの歌(項目28、33、34、36、37参照)が「日」に無かったりする。今仮に「日」を第一系統の範疇に入れておくとするならば、他の第一系統諸本とはグループを分ける必要があると稿者は考える。

(七) 奥書に若干の異同が見られるので、ここに記す。「随」は上巻末にある奥書に拠った。

- ・ 譯和々歌集―譯和倭謠集「東」譯和倭歌集「ノ」譯和和歌集「長」
- ・ 法花部歌―法花部謠「東」法花部之歌「長」
- ・ 注解―注「随」

(八) 【随】【斯】【塚】を前号の諸本対照表に当てはめて再調査したところ、次の傍線部を追加する結果となった。《内は、前号の頁・行数である。前号の対照表によって確認できた38項目(前号72頁〜74頁)のうち、ここで挙げる項目以外のものについては、【随】【斯】【塚】を比較の対象に加えても

変更はない。

《72頁下段4行》3、「内」21番歌「散迷ふ花の匂ひを先立て光を法の筵にそし  
く」は、「斯」「龍」には無い。

《72頁下段23行》12、「内」番号59↓61↓60↓62↓63という歌順は、同じ第一系統の「随」「斯」「塚」「日」「書」「東」「天」「ノ」「松」「龍」にも共通する特徴である。

《73頁上段18行》20、「内」番号133↓135↓136↓137↓138↓139↓134の歌順は、「塚」「書」「東」「天」にも共通する特徴である。

《73頁下段9行》27、「慶△」番号で次の4首は、第二系統本と第一系統の「随」「日」にのみ有る。

- 227 昔いま鏡をかけてしのみか行末とても曇やはする
- 228 いにしへはをかさまくありしかとおなし山にそけふは入りぬる
- 229 さきの世もなにかへたてむおなしときみな仏にしならんとすれは
- 230 木のまより出てすむへき月影を待つときかする秋風の声

《73頁下段15行》28、「内」235番歌「結びをく嘆となら法の花ちりの末迄教に  
もらすな」は、第二系統本と第一系統の「随」「日」には無い。

《73頁下段17行》29、「内」番号235↓237↓242↓240↓241↓○↓246↓244↓233↓○↓232  
↓243↓247↓245↓249↓238↓○↓236↓234↓248↓239↓250↓257↓252  
↓251↓256↓253↓260↓258↓259↓254↓255↓263↓261↓262(○は歌  
が無い箇所)の歌順は、『訳和集』第一系統と第二系統との歌順を比較した時、最も異同の激しい箇所である。「塚」「書」「内」「東」「天」は完全に歌順が一致する。また、「斯」「ノ」「松」「龍」「彰」も部分的に歌の有無(項目31、33、35参照)があるものの、基本的には「書」「内」「東」「天」

の歌順と共通である。但し、抄出本の「長」はさておき、第一系統の中で「随」「日」だけが、歌順の錯綜がなく整然としている。(以下略)

《74頁上段7行》30、「慶A」235番歌「ひと声をきゝそめてこそ郭公なくに夜ふかき夢は覚めけれ」は、第二系統本と第一系統の「随」「日」にのみ有る。

《74頁上段9行》31、「慶A」239番歌「尋きてちかつく水にしるき哉まつひらくへき胸の蓮は」は、「随」「斯」「日」「ノ」「松」「龍」に有り、「塚」「書」「内」「東」「天」「彰」「長」には無い。

《74頁上段12行》32、「慶A」246番歌「静かなるところはやすく成ぬへし心すまさむかたのなき哉」は、第二系統本と第一系統の「随」「日」にのみ有る。

《74頁上段14行》33、「内」250番歌「雲はらふ夜はの嵐のしるへこそさやけき月の光成けり」は、第二系統本と第一系統「随」「日」「龍」には無い。

《74頁上段16行》34、「内」253番歌「月もさそ照まさるらん鷺の山三度請し跡の光は」は、第二系統本と第一系統の「随」「日」には無い。

《74頁上段20行》36、「内」255番歌「かたぐにわかぬ光に頭て行末とをくてらす月かけ」は、第二系統本と第一系統の「随」「日」には無い。

《74頁上段22行》37、「内」262番歌「一法をしめしたもては八十の玉をけかさぬ人に成にける哉」は、第二系統本には無い。「日」は264番の後に奥書があり、そこで上巻部が終わるので、「日」にも「内」262番歌は無かったと推測される。「随」にも無い。

(九) 前号72頁下段、73頁上段の項目1、13、18、21を参照されたい。

(十) これについては、前号75頁上段1行目、7行目において、「承B」(国文学研究資料館所蔵・承応二年刊本)と「慶B」(駒澤大学図書館所蔵・慶安五年刊本)に異同が見られることを簡単に指摘していたが、その後、那須陽一郎氏(『訳和歌集』本文の研究―慶安五年刊本・承応二年刊本本文異同一覧―・日本大学大学院国文学専攻論集 第一号・二〇〇四年九月)によって、「慶A」「慶B」「承A」「承B」四種の刊本の間に見られる増補過程ならびに刊行順序などについての詳しい論述がなされた。

付記

『訳和集』諸本対照表を作成するにあたり、貴重な資料を提供してくださりました塚田晃信先生・海野圭介先生、そして各所蔵館に、記して深甚の謝意を申し上げます。

### 三 翻刻

今回は通し番号352番から436番までの翻刻である。凡例は前号の通り。内閣文庫本の歌順の異同については、ここに予め記す。(歌番号は、底本の通し番号による。)

362 ↓ 365 ↓ 363 ↓ 364 ↓ 366 ・ ・ ・ 388 ↓ 391 ↓ 389 ↓ 390 ↓ 392 ・ ・ ・ 409 ↓ 411 ↓ 410

前大僧正慈鎮

(四・九・オ)

352 闇の夜もひるをもわかす鷺の山いづも長閑に有明の月

【校異】(九・オ)①前大僧正―ナシ「内」、②夜も―よるも「承」

法橋顕昭

353 わしの山いかにすみける月なれば入ての後も世や照すらん

【校異】 (九・オ) 集付ナシ―続古「内」、④後も―後を「内」、④世や―世を「内」「承」

祭主輔親

354 この世にて入ぬと見えし月なれと鷲の山にはすむと社きけ

【校異】 (九・オ) 集付ナシ―風雅「内」

西行法師

355 さとりにし心の月のあらはれて鷲の峯にはすむにそ有ける

【校異】 (九・オ) ⑦法師―ナシ「内」、⑧さとりにし―悟えし「内」、⑧峯には―高峯に「承」

定家

356 鷲の山月を入ぬと見し人はくらきにまよふころ成けり

【校異】 (九・オ) ⑨定家―ナシ「内」、円位法師「承」、集付ナシ―千載「内」、

⑩見し―見る「内」

後京極 (九・ウ)

357 鷲の山誰かは月を見ざるへき心にかゝる雲しはれなは

【校異】 (九・ウ) ①後京極―ナシ「内」、西行「承」、②はれなは―なけれ

は「承」

前大僧正慈鎮

358 鷲の山くもる心のなかりせは誰もみるへき有明の月

【校異】 (九・ウ) ③前大僧正慈鎮―ナシ「内」、同「承」

なき人の跡に一品経供養しけるに寿量

品の心を人にかはりてよみ侍りける

定家

359 雲はるゝ鷲の御山の月影を心すみてや君なかむらん

【校異】 (九・ウ) ⑥よみ侍りける―ナシ「内」、⑦定家―ナシ「内」、同「承」、

〔左注ナシ〕―いつれもおなし作意なり「内」

俊成

360 末の世はくもるはるかにへたつ共てらささらめや山のはの月

末世に成ぬれば人のまよひも次第くにくにふ (二〇・オ)

かくなり侍る也され共仏の御慈悲はへたてたま

はしと也

【校異】 (九・ウ) ⑩くもる―雲の「内」、くもの「承」、(二〇・オ) ①末世

―末の世「内」、②侍る也―侍物也「内」

従三位為理

361 定めなくゆきかふ空の浮雲に心まよはす有明の月

人の心にしたひて仏の利益姿をかへおろかなる

塵にましはりてつゐにまことのみにち道ひき

給ふ事月の雲にましはるかことしと也

【校異】 (二〇・オ) 集付ナシ―新統古「内」、⑤利益―御利益も「内」、⑤

かへ―かへて「内」、⑦ことし―こととく「内」

藤原国房

362 月影の常にすむなる山のはをへたつる雲のなからましかは

是は仏の御影を常住不滅なれとも衆生の

まよひのへたて侍るをなげくよしなり (二〇・ウ)

【校異】 (二〇・オ) 集付ナシ―千載「内」、⑩影を―影は「内」、⑩不滅

―不遍「内」、(二〇・ウ) ①まよひのへたて侍るを―迷の雲の隔

るを「内」

登蓮法師

363 世中の人の心のうき雲に空かくれする有明の月

【校異】 (二〇・ウ) 集付ナシ―詞花「内」

崇徳院御製

364 月影の入さへ人のためなれば光みねども頼まさらめや

【校異】 (一〇・ウ) 集付ナシ―玉葉「内」、⑤みねども―みえねと「内」  
定家

365 浮世にはうれへの雲のしけゝれは人の心に月そかくるゝ

【校異】 ナシ  
母の周忌に法花経みつから書て巻くの  
心をよみて表紙の絵にかゝせける六巻の  
ころを秋によせて

366 てらさなむ世ゝもかきらぬ秋の月入山のはに光かくさて

亡魂のころのやみをとともひかりかくさぬ  
月なれば照し侍れかすとねかふ心なり

(一一・オ)

【校異】 (一〇・ウ) ⑧周忌に―周忌「内」、⑧法花経―法花経を「内」、⑨  
表紙の絵に―表紙に「内」、⑨ける―けるに「内」、⑩秋によせて

―ナシ「内」、(一一・オ) ①世ゝも―世にも「内」  
宝 樹多 二花菓 衆 生所 二遊楽 一のころを  
頓阿

367 鶯の山常なる春の木の本に人めもしらて花や見るらん

【校異】 (一一・オ) ④遊楽―遊楽「承」、④のころを―ナシ「内」、  
⑥しらて―ちらて「内」  
柔和質 直 者 則 皆見 我身 一のころを  
前大僧正良信

368 にこりなき心の水にかけとめてふた度やとれ山のはの月  
噴悲邪曲の心のにこりなき水にかならず仏の

影をうかふへしと説文なればかくよめり (一一・ウ)

【校異】 (一一・オ) ⑦のころを―ナシ「内」、集付ナシ―新拾遺「内」、  
⑩心の―ナシ「内」、⑩水に―水には「内」、(一一・ウ) ①説―か  
く「内」、①よめり―なり「内」  
壽命無数劫のころを  
前大僧正慈鎮

369 是そまこと仏の道に入しよりはてし命はつくるものかは  
まことのみちとは本覚真如の理にいりぬるゆへに  
仏寿無量無辺なりとみえたり

【校異】 (一一・ウ) ②のころを―ナシ「内」、③前大僧正―ナシ「内」、  
④はてし―えてし「承」、⑤いりぬる―入侍る「内」、⑥みえたり

―云る也「内」  
得し入 二無上道 一のころを

370 まよふ人の心のゆくにしたかふや上なき道のしるへなるらん  
寿命品の心は迷の当体をおさへて本覚真  
如の理とあらはし侍る故にころのゆくにしたかふ  
といへり上なき道とは本覚の理なり (一一・オ)

【校異】 (一一・ウ) ⑦のころを―ナシ「内」、⑨をおさへて―に―さへ  
て「内」、(一一・オ) ①上なき道―無上道「内」、①なり―にて侍  
る也「内」  
分別功德品  
伝教大師

371 我命なかしと聞てよろこへる人はかならず仏とそなる  
寿命品のとき仏寿無量なりととける  
たゝ本覚是仏の理なり此むねあらはるれば

壽命品のとき仏寿無量なりととける  
たゝ本覚是仏の理なり此むねあらはるれば



一切衆生皆本覺の如來なり此説を聞侍  
りて深信し侍るをよるこへるといへり信  
解する外に修行をからずして仏となる  
といふ事なり

【校異】

(二・二・オ) ④我命—我今朝「内」、④かならず—さながら「承」、  
⑤とける—とけるは「内」、⑥本覺—本来「内」、⑦聞侍りて深信  
し侍るを—きよてふかく信し侍るを「内」、⑧といへり—とは云  
り「内」、⑨修行—修行をも「内」、⑩仏と—仏に「内」  
或住二不退地—のころを  
前大僧正慈鎮 (二二・ウ)

前大僧正慈鎮

鷲の山けふきく法の道ならて帰らぬ宿に行人そなき

如來壽量の説を聞て不退転地にいたる

といふ文の心なれば帰らぬ宿にゆく人なしと

いへり靈鷲山にてきくみちの外に不退

地にやすくいたる道はなしといふ心なり

【校異】 (二・二・ウ) ①のころを—ナシ「内」、②前大僧正—ナシ「内」、

集付ナシ—新古「内」、④説—功德「内」、⑥外に—外には「内」

定家

浮世をは出てしうへのほり行ふかき山路にかきりなき哉

惣して仏道はうき世を出はなれたるかたなり

仏の道にもまた浅深のくらあまらなくに

わかれたれはかきりなきといふ心にや

【校異】 (二・二・ウ) ⑧〈詞書ナシ〉—清浄之果報「内」「承」、⑧定家—ナ

シ「内」同「承」、⑨ふかき—清き「内」、きよき「承」、⑩山路に

—山路の「内」、⑩出はなれたる—出離したる「内」、(一三・オ)

①仏の—其仏の「内」、②わかれたれは—別て「内」、②なきとい  
ふ心にや—なしと云心なり「内」

藤原家隆

374 限りなくさとは空の浮雲を分てわかるゝ有明の月

【校異】 (二・三・オ) ③〈詞書ナシ〉—如虚空無辺「内」「承」、③藤原家隆

—家隆卿「内」、④さとはは—さとれば「内」「承」、④分てわかる

ゝ—分てのほる「内」、(左注ナシ)—仏不思議の法を説給ふに利

益し給ふ事虚空のほとりなきかことしと云文の心なれば仏道重々

無尽にして雲を分て月の行かことしとはいふなり「内」

續粉而乱 墜如二鳥飛空下—の心を

定家

375 とふ鳥のあすか河風それかとも袖ふきかへし花を降しく

もろくの菩薩たち仏の説法を聞侍り

て供養をのふるにあるひは曼陀曼珠の華

あるひは梅檀沈水の香虚空よりふりくた

る事鳥のとふかことしと説侍ればあすか河

風よせて説侍る歟

【校異】 (二・三・オ) ⑤のころを—ナシ「内」、⑥定家—ナシ「内」、⑦そ

れかとも—それもかと「承」、⑧菩薩—大士「内」、⑩梅檀—梅檀

「内」、⑩ふりくたる—ふりくくたる「内」、(二・三・ウ) ②説侍

る歟—説侍る歟「内」

若坐若經 行除レ睡 常撰レ心—のころを

俊成

376 をこたらず常に心をおさめつゝいつか浮世の眠さむへき

これは菩薩の六波羅蜜の修行の中の禪波

羅蜜らみつて座禪ざぜん工夫くふうし給たまふ事をかく宜のたりさ  
れはうき世よの眠ねふりさまさむために座ざしても  
ありきても心をおさめ侍るといふ心なり

【校異】 (二三・ウ) ③のころを「ナシ」「内」、④俊成—俊成卿「内」、⑤

をこたらず—をとたらず「内」、⑥これは—これ「内」、⑥禪波羅蜜  
て—禪波羅蜜の心として「内」、禪波羅蜜として「承」、⑧眠ねふりさまさむ  
—睡をさまさん「内」、⑨ありきても—あるくにも「内」、⑩いふ  
心なり—なり「内」

願ねがふ我われ於お二未來みらい—長なが 寿度じゆど 中衆生ちゆうじゆうじやうのころを

法性寺入道前関白太政大臣(一四・オ)

末の世の人も闇にやまよふとていらしとちかふ有明の月

釈迦しやくかほとけわか寿命じゆめいの遥はるかなる事を説給

ふに声こゑ 聞菩薩もんぼつさつ人天までも大なる利益りやくあるを

見侍りて大菩薩だいぼつさつたちわれも又未來みらいに今

日のことく三身さんじん寿量じゆりやうのむねを説て衆生じゆうじやうを度と

せむとちかふ心なりそれをいらしと誓ちかかとはいへり

人をすくはむかために世に住し給ふといふ心也

【校異】 (二三・ウ) ⑩のころを「ナシ」「内」、(二四・オ) 集付ナシ—続

古「内」、②末の世の—末すゑの末の「内」、世の末の「承」、③遥はるかなる  
—はるかなく「内」、⑤われも—われらも「内」、⑥説て衆生じゆうじやうを度と  
せむ—とかん「内」、⑦誓ちかか—ちかかふ月「内」、⑧也—歟「内」  
読人しらす

行末ぎやうまつになからの橋はしの朽くすしてつくる世もなく人を渡さん

【校異】 (二四・オ) 集付ナシ—同「内」、⑩行末に—行末も「承」

正三位隆教 (一四・ウ)

379 みな人を渡さむと思ふともつなのなかくもかなや淀よどの川舟

—兩首の心まへにおなし

【校異】 (二四・ウ) ①正三位—正二位「承」、集付ナシ—風雅「内」、③(左

注) —ナシ「内」

則すなは如ごと二仏ほとけ現ま在まのころを

大藏卿隆資

380 雲はらふ夜半の嵐あらしのしるへこそさやけき月の光なりけれ

文の心は此経をたもたん人をは仏ほとけの現在げんざいに

いますかことく供養くやうせよといふ心なりまよふ

雲をはらふ嵐あらしはさなから月の光なりといへり

是も仏の光月にたとへ侍り

【校異】 (二四・ウ) ④のころを「ナシ」「内」、⑤隆資—隆博「内」「承」、

集付ナシ—続後拾「内」、⑧まよふ雲を—されは迷の雲を「内」、

⑩光—光りそと「内」

不ふレ久く 詣よ二道場だうじやうのころを

前大僧正慈鎮

(一五・オ)

381 いそき行宿ぎやうじゆくにははらぬ道なれや五の品も四のまことも

四位しゐ五品ごひんとは高位かうゐの菩薩ぼつさつは無明むみやうの迷まひを

断たんして中道ちゆうだうのさとりをひらくに重ちゆう々の浅せん

深じんありそれより位ゐくたれる人は又四位五品の

益えきとして浅あき功徳くどくをえ侍るなりさていまの文

に道場ちやうじやうといへるはふかき位の功徳なれば四位五

品の位ゐより時節じせつををくらすはやく断無明たんだんむみやうの

位ゐにいたるへしといへりされは今の哥たがひに宿

にかはらぬといひ侍るはいそかねともはやくいた(一五・ウ)

るといふこゝろなり

【校異】

(二五・オ) ①のこゝろを―ナシ「内」、②前大僧正―ナシ「内」、③宿に―宿し「承」、③なれや―なれば「内」、③まことも―くらゐも「内」、④四位―四信「承」、④とは―と申は「内」、⑤重々の―重く「内」、⑥四位―四信「承」、⑦益―益「承」、⑦浅き―浅深「内」、⑦え―取「内」、⑦いまの文―文に「内」、⑧四位―四信「承」、(二五・ウ) ①かはらぬ―いそかぬ「内」

随喜功德品

平宗泰

かきなかつ山の岩根の忘れ水いつまで苔の下に澄なん

此経を展転書写の功德ひさしくつき侍

らぬ事を岩ねの水のなかれのとをくにいたる

にたとへていへるなるへし

【校異】

(二五・ウ) 集付ナシ―拾遺風「内」、⑤澄なん―すみけん「内」、⑦岩ね―岩かね「内」、⑦とをくにいたるにたとへていへるなるへし―遠きにたとへ侍敷「内」  
如レ是展 転教のこゝろを

前大僧正慈鎮

383 つたひ行五十の末の山の井に御法の水を汲てしる哉 (一六・オ)

此品に五十展転の功德を説侍りたとへは

この経を聞侍りて人には説つたへくして第五

十人にいたるをもつて八十ヶ年の布施に校

量し侍りその五十を山の井のいそち伝たる

に類し侍り御法の水を汲てしるとはなか

れのとをくいたるをはかりしるといふ事なり

【校異】

(二五・ウ) ⑨のこゝろを―ナシ「内」、⑩前大僧正―ナシ「内」、(二六・オ) 集付ナシ―続拾「内」、②説侍り―とけり「内」、③説つたへくして―とき伝くして「内」、④いたる―至れる「内」、⑤山の井の―山の井に「内」、⑤伝たる―つたひくる「内」、⑦とをくいたるを―遠きにて源のふかきを「内」  
最後第五十聞二偈随喜のこゝろを

俊成

384 谷川のなかれの末を汲人もきくはいかゝはしるし有ける

五十展転の功德と申侍るはた聞法の成仏 (一六・ウ)

の種となれる事なりされは聞の字を菊に

類し侍る菊は谷に咲花なれば第五十転

の聞法までもしるしのとをくいたるといふことなり

【校異】

(二六・オ) ⑧のこゝろを―ナシ「内」、⑨俊成―俊成卿「内」、集付ナシ―新勅「内」、⑩きくはいかゝは―きくにはいかゝ「内」、⑩有ける―有けん「内」、(二六・ウ) ②聞の字を菊に類し侍る―聞の字菊と云字にかよへるをもつて類し侍り「内」、③転―人「内」、④ことなり―心也「内」

何 況於 二法会二のこゝろを

法眼源承

385 水上をおもひこそやれ谷川の流も匂ふ菊の下露

経の文は第五十人のきける功德なをいとふ

かしいはんやさい初の会にして直に聞侍し

人をやといへりかるかゆへになかれのすゑのきく (一七・オ)

にして谷の水上の匂ひを思ひやると也

にこりなくきよき心にみかゝれて身こそますみの鏡成けれ

又如<sup>マタ</sup>淨<sup>コトシツ</sup>明<sup>シヤウ</sup>鏡<sup>ミヤウカミ</sup>のこゝろを

俊成

【校異】 (一七・オ) ④のこゝろを―ナシ「内」、⑤前大僧正―ナシ「内」、

⑦此品は―此品には「内」、⑦法花―法花経「内」、⑧六根とは―ナシ「内」、⑨なり―ナシ「内」、⑩生出て―生出て「内」生出

て「承」、⑩物―六根「内」、(一七・ウ) ②六根に―六根と「内」、

④見―ナシ「内」

こゝろなり

いかてか三千世界の内外を見侍らんやといふ

見三千界といへり清淨の眼にあらすは

現身に清淨の六根に転し侍也されはそ

中の眼根を説侍るに父母所生眼悉

肉身より生出てけられたる物なりされ共

根とは眼耳鼻舌身意なり此六は父母の

る故に法師功德品とは名つけ侍り六

此品は法花修行の人六根清淨の功德をう

海士のかるみるめにかゝるもくつまできよき光のさはる物かは

【校異】 (一六・ウ) ⑥のこゝろを―ナシ「内」、集付ナシ―新拾「内」、⑧

下露―下水「承」、⑨なを―ナシ「内」、(一七・オ) ②にして―て「内」、②やると也―やりたる也「内」

法師功德品

父母所生眼のこゝろを

前大僧正慈鎮

父母所生眼のこゝろを

前大僧正慈鎮

(一七・ウ)

又如<sup>マタ</sup>淨<sup>コトシツ</sup>明<sup>シヤウ</sup>鏡<sup>ミヤウカミ</sup>のこゝろを

俊成

【校異】 (一八・ウ) ①のこゝろを―ナシ「内」、(詠者名ナシ)―慈鎮「内」、③

③いつる―云る「内」、④諸法ことごとく実相の妙理なれば実相

【校異】 (一八・オ) ④の心を―ナシ「内」、⑤前大僧正―ナシ「内」、⑥心

は―心も「内」けしきは「承」、⑧諸法をうかへ侍り―諸法うかへ

待る「内」、⑨見るといへり―見侍ると云心也「内」

皆与<sup>ミナト</sup>実相<sup>ジツサウ</sup>不<sup>フ</sup>相違<sup>ソウイ</sup>背<sup>ハイセ</sup>のこゝろを

俊成

【校異】 (一八・ウ) ①のこゝろを―ナシ「内」、(詠者名ナシ)―慈鎮「内」、③

③いつる―云る「内」、④諸法ことごとく実相の妙理なれば実相

六根の中の身根の清淨なる事を説侍り

【校異】 (一七・ウ) ⑦のこゝろを―ナシ「内」、⑧俊成―俊成卿「内」、⑩

六根の―是は六根の「内」、(一八・オ) ②心に―されは心に「内」、

③鏡―ますみのかゝみ「内」、③いひ侍り―云り「内」

唯<sup>タビ</sup>独<sup>ドク</sup>自<sup>ジ</sup>明<sup>メイ</sup> 耳<sup>ミミ</sup>余<sup>ヨ</sup>人<sup>ニン</sup>所<sup>ショ</sup> 不<sup>フ</sup>レ<sup>レ</sup>見<sup>ミ</sup>の心<sup>シン</sup>を

余所にしらぬ人の心はさもあらはあれ独心の月をみる哉

六根淨の人の身は清きかゝみのことごとくにして

十界三千の諸法をうかへ侍りしかれとも余

人はこれを見ることなしたゝ自身のみ見る

といへり

【校異】 (一八・オ) ④の心を―ナシ「内」、⑤前大僧正―ナシ「内」、⑥心

は―心も「内」けしきは「承」、⑧諸法をうかへ侍り―諸法うかへ

待る「内」、⑨見るといへり―見侍ると云心也「内」

皆与<sup>ミナト</sup>実相<sup>ジツサウ</sup>不<sup>フ</sup>相違<sup>ソウイ</sup>背<sup>ハイセ</sup>のこゝろを

【校異】 (一八・ウ) ①のこゝろを―ナシ「内」、(詠者名ナシ)―慈鎮「内」、③

③いつる―云る「内」、④諸法ことごとく実相の妙理なれば実相

に達しぬれば諸法ことごとく唯<sup>タビ</sup>一<sup>イツ</sup>乘<sup>ゼウ</sup>の妙

理なれば実相の外には一物もなしといへる

こゝろか

の外には一物もなしといへるころか―諸法実相なる故に色も香も味も実相の外の物なしと云り「内」

八条院高倉

津の国の難波におふるよしあしはいふ人からのことのはそかし

善悪の差別邪正の異なる事も凡

夫の眼の境界なり六根浄の眼の前に

は善悪一如に融し邪正も一体に会すへし

【校異】 (二八・ウ) ⑦国の―国や「承」、⑧眼―眼前「内」、⑨眼の前―

人の眼前「内」、⑩善悪―善悪も「内」、⑪一体に―一たひも「内」

是人有レ所ニ思惟籌量言説―皆是仏法の(一九・オ)

ころをよみ侍りける

俊成

ふたつなき道の心のすみぬれは思ふことみな法とこそきけ

ふたつなき道は一乗の妙法なり彼中道実

相の道にかなひ侍れはくちにいひ身に振舞

ことみな仏法そとなり

【校異】 (一九・オ) ②よみ侍りける―ナシ「内」、③俊成―俊成卿「内」、

④道の―道に「承」、④みな―見る「内」、⑤道は―道の心とは「内」、

⑤一乗の―一乗実相の「内」、⑥侍れは―ぬれは「内」、⑦みな仏

法そとなり―ことくく仏法なり「内」

是人持ニ此経ニ安ニ住希有地一のころを

前大僧正慈鎮

嬉しきはつゝに住へき深山路の草もゆるかぬ法の秋風

六根浄の人は心を実相の妙法に安住して

一切衆生のために悦はれ愛敬せらるゝ事

(一九・ウ)

法印源為

をいへりかくのことくあふきうやまはるといへとも  
心地動転せぬ事を草もゆるかぬといへり

【校異】 (一九・オ) ⑧(詞書)―ナシ「内」、⑨前大僧正―ナシ「内」、(二

九・ウ) ①人は―人「内」、③いへり―云る也人、「内」、③あふ

きうやまはる―あふく「内」、④といへり―とは云り「内」

第七卷不軽菩薩品

前大僧正道昭

冬枯の木末は何かあたならむ枝もこもれる花も紅葉も

不軽菩薩と申せしは釈尊むかし菩薩

にてわたらせ給ひける時の御名なりな

とて不軽とは申けるそといふに人々の仏性

を具しけるを信してあまねく一切衆生

を礼し給ひき是によつて見る人かろん

せざる菩薩と名つたり今この哥に冬か

れの梢のあたならぬとは当体凡夫なるをた

とへたり花紅葉の枝にこもるとは仏性の

そなはりたれはつゝに時にあへらは花紅葉と

あらはるゝことく仏になるへしといふ心なり

【校異】 (一九・ウ) ⑦枝もこもれる―枝にこもる「内」「承」、⑦紅葉―

紅葉「内」、⑧釈尊―釈迦の「内」、⑨にて―に「内」、⑨給ひける

給へりける「内」、(二〇・オ) ①ける―侍ること「内」、②是に

よつて―是よりして「内」、③たり―侍り「内」、⑤紅葉―紅葉「内」、

⑥紅葉―紅葉「内」、⑦あらはるゝことく―あらはるへきことく

「内」⑦といふ心なり―となり「内」

法印源為

393

391

392

草の庵柴のあみ戸の住居までさしくる月はかはる物かは

草のいほり柴の網戸の住居かゝる所にも

そなはれる仏性は月のさしくるかことくかは (二〇・ウ)

らしとへり

【校異】

(二〇・オ) ⑨まで―共「内」、⑩さしくる月はかはる物かは―わ

かぬは月の光なりけり「内」わかぬは月の光也けり「承」、⑩草の

いほり柴の網戸の住居かゝる所にも―柴のあみ戸はいやしき人の

居所也かゝるいやしき住居にも「内」、(二〇・ウ) ②といへり―

となり「内」

乃至遠見四衆亦復故往礼拜皆当

作仏のころをよみ侍りける

権僧正玄円

はるかなるよもの梢の冬こもりいかて咲へき花とみゆらん

哥の心まへにおなじ

【校異】

(二〇・ウ) ③亦復故往礼拜皆当―作仏のころをよみ

侍りける―汝当作仏「内」、⑤権僧正―前権僧正「内」、⑥みゆ―

見る「内」、(左注)―ナシ「内」

我深敬汝等不取輕慢のころを

前大僧正慈鎮

廿あまり四てふ文字に 顯れて仏のたねはかくれさりけり

廿四字とは我深敬汝等不取輕慢所以 (二一・オ)

者何汝等皆行菩薩道当得作仏

といふ文なり此文を唱て礼し給へり衆

生所具の仏性と申も此廿四字をは出さる

故に仏のたねはかくれすといへり

【校異】 (二〇・ウ) ⑧のころを―ナシ「内」、⑨前大僧正―ナシ「内」、

(二一・オ) ①不取輕慢―不取輕―慢「承」、④をは―ナ

シ「内」、⑤かくれす―あらはれす「内」

而打擲之避走遠住のころを

うたてかくにけてもおかむ心より人をかろめぬ名をそとむる

まへにいへるかことくしるをもしらぬをもの

廿四字をとなへて礼し給ふに輕毀の衆と

てあしきもの有であるひは瓦石をなけて

菩薩をうちあるひは杖にてうち侍るあ

ひたとをくにけさつて高声にとなへ

侍る誠に有かたきころなり

【校異】 (二一・オ) ⑥のころを―ナシ「内」、⑧いへるか―云る「内」、

⑨給ふに―給ふ「内」、⑩瓦石―石瓦「内」、(二一・ウ) ②にけ

さつて―にけて「内」

権僧正永縁

逢かたき法をもとむる聖にそうちみる人もみちひかれけれ

値かたき法をもとむるとは法花経をえんた

めの修行なり聖とは不輕菩薩なりう

ち見る人とは不輕をそしり侍りし人の杖

木瓦石にてうちにし人もつゐには逆縁と

なつて道ひかれ奉りしといふころなり

【校異】 (二一・ウ) ⑤にこそ―「内」、⑤うちみる―うちみし「承」、⑤

けれ―ける「承」、⑥えん―得侍らん「内」、⑧侍りし―「内」

⑨石―石「承」、⑨うちにし―うちし「内」

俊成

(二二・オ)

そのかみのあらきたふさの杖にこそ終にかゝりて道ひかれけれ

あらきたふさとは杖を手にとる事をいへり

老人の杖にかゝるといふ縁語歟

【校異】

(二二・オ) ①俊成—俊成卿「内」、②あらき—あしき「内」、③あらき—あしき「内」、④老人の—かゝるとは老人の「内」、④縁語

歟—縁語をかる歟「内」

寂蓮法印

いく帰りくるしき道を過して昔の杖に猶かゝりけん

いく帰りくるしき道を過すとは不軽をそし

りうちける悪逆によりて千劫阿鼻大城

にしつみ侍る事なりそのあく心のうちに

も妙法を聞き故につゐには仏となり侍る

これを昔の杖にかゝるといふなり

【校異】

(二二・オ) ⑤法印—ナシ「内」、法師「承」、集付ナシ—玉葉「内」、⑦過す—すく「内」、⑨うちにも—内に「内」、⑩つゐには—つゐ

に「内」、(二二・ウ) ①これを—故に「内」、①といふ—とは云「内」

後嵯峨院御製

哀なり憂もつらきもしりなからたへ忍ひける人の心は

【校異】 (二二・ウ) ③ける—けむ「内」

神力品

現ニ大神力ニのこゝろを

前大僧正慈鎮

十までの神の力と聞御法けにそ仏のしるし成ける

仏の因果の功德をは昔いまをかけて不軽品

まてに説をはり給へりさて此品にては十

種の神力を現し給ふ事は此経を自界

他方の大菩薩たちに付属し給はんか

ためなり此付属仏の御ためには大事

なればまつ神力を現して衆の心をおとろ

かし給ふなり十種の神力とは一舌相二通

身放光三響 咳四弾指五動地六普見大会

七空中唱 声八南無帰命九遥散諸物十

十方通同如一仏土也

【校異】

(二二・ウ) ⑤のこゝろを—ナシ「内」、⑥前大僧正—ナシ「内」、⑧仏の—仏「内」、⑨にては—にて「内」、(二三・オ) ①給はんか

—給はん「内」、②此—この時「内」、②ためには—ために「内」、

③衆—の衆生の「内」、④通身—道力「内」、⑤咳—歎「内」、

⑤指—ナシ「内」、⑤地—ナシ「内」、⑥唱—声「承」、⑦

十一—十々「内」

是—二音 声 遍 至 十方諸仏世界—の心を

法印聖憲

待えたる鷲の高根の郭公たゝふた声そ四方に聞えし

二声とは釈迦及分身の諸仏同時に弾指

響 咳し給ふ声十方世界にいたるといふ心

なり是を郭公によせ侍るなり

【校異】

(二三・オ) ⑧の心を—ナシ「内」、集付ナシ—続古「内」、(二三・ウ) ①二声とは—ふたつの声とは「内」、③是を—これ「内」、

③よせ—寄せてよみ「内」

スナチコレカクテヤウリ  
即是道 場の心を

前大僧正慈鎮

この国の難波の浦の大寺の額の銘こそ誠なりけれ

これは法華經安置し奉る所はいづれの処

なりとも道場たるへしと説文なりしかれ

は天王寺には釈迦如来転法輪処当極楽

土東門中心といふ額を聖徳太子のかけ給

へり天竺日本さかひはるかなれとも釈尊説

法のところと名つけ給へる事經のこゝろ

にかなふといふ心なり

(二四・オ)

【校異】

(二三・ウ) ④の心を―ナシ「内」、⑤前大僧正―ナシ「内」、⑦法華經―法花經を「内」、⑨釈迦如来転法輪処当極楽土東門中心

―釈迦如来転法輪処南無極樂世界西方中心「内」、(二四・オ) ①釈尊―釈迦「内」、②經のこゝろにかなふといふ心なり―ふかく經の

心にかなふ心也「内」

源俊賴

源俊賴

大空を御法の風や払ふらん雲かくれにし月を見る哉

能持 是 經者 於 諸法之義名字及言辭

樂説無 窮 尽 如下 風 於 空中 一切無 障礙 上と

いへる文ありかるかゆへにかくよみ侍るなり

【校異】

(二四・オ) ④源俊賴―俊賴朝臣「内」、⑥能持 是 經者―

此哥は能持是經者「内」能持 是 經者―者「承」、⑧ありかる

かゆへに―あるによつて「内」、⑧侍るなり―侍り「内」  
於 如来 滅後 知 二 仏 所 説 經 因 縁 及 次第

シタカテモコトクシノトクニテクハナクウミヤクノヨクソクカモロクノユウミヤク  
隨 義 如 実 説 如 三 日 月 光 明 能 除 諸 幽 冥  
斯 人 行 二 世 間 能 滅 衆 生 闇 の こ ゝ ろ を (二四・ウ)

蓮上法師

日の光月の影こそ照しけれくらき心の闇はれよとて

經文の心をえ侍らは哥の心はやすくしり

侍らん

【校異】 (二四・ウ) ①のこゝろを―ナシ「内」、集付ナシ―千載「内」、③

こそ―より「内」とそ「承」、③けれ―けり「内」ける「承」、③

心の―心は「内」、④經文の―この經文の「内」、④心は―心「内」、

④しり侍らん―侍らん「内」

於 二 我 滅 後 二 応 レ 受 二 持 此 經 一 是 人 於 二 仏 道

決 定 無 有 疑 の こ ゝ ろ を

俊成

此法をこの比たもつ是そこの仏のみにさためける人

【校異】 (二四・ウ) ⑦のこゝろを―ナシ「内」、⑧俊成―俊成卿「内」、⑨

ける―たる「内」「承」

大納言忠良

あらさらむ後の世かけし契こそ頼につけて嬉しかりけれ

(二五・オ)

【校異】

(二五・オ) 集付ナシ―新後撰「内」  
八条院高倉

契をくその行すゑの頼あらは此世をうしと何かなげかん

【校異】 (二五・オ) 集付ナシ―同「内」

定家



410 定ける仏の道をしるへにて今はうき世にまよはずも哉

【校異】 (二五・オ) ナシ

西行

411 行末のためにととかぬ法ならば何か我身の頼あらまし

【校異】 (二五・オ) ⑥西行―西行法師「内」、⑦にととかぬ―にととめぬ

「承」、⑦身の―身に「承」、⑦あらまし―ならまし「内」

慈鎮

412 法の花ほどけのたねを結ふことを疑ひまこと聞そ嬉しき

六の哥ともにおなし文のこゝろをよめり

【校異】 (二五・オ) ⑨花―花に「内」、⑨疑ひまこと―疑ましと「内」疑

ふましと「承」、⑩六の哥―六首「内」、⑩おなし文のこゝろをよ

めり―一文の心を読み心あらはなり「内」

囁累品

中納言定家

(二五・ウ)

413 みたひなつる我くろ髪かみの末までもゆへる御法みほりをなかく頼む

ほとけ此経このきんぎょうをもろくの大菩薩だいぼさつに付属ふぞく

し給ふとて右の御手みでをもつて三度諸菩薩さんたうしよぼさつ

薩さつの頂いただきを同時どうじになて給へる是神変じんぺんの

仏力ぶつりきなりしかればみたひなつるくろ髪かみとい

へりす多おほはかみの縁語えんごなり末代まつだいまでも

たもつへしとなり

【校異】 (二五・ウ) ②中納言―ナシ「内」、③ゆへる―ゆつる「内」「承」、

③頼む―頼まん「内」、⑥給へる―給へり「内」、⑧かみの―黒髪

の「内」、⑧までも―まで「内」

今いま以付もち三属さんじゆく汝等にのこゝろを

前大僧正慈鎮

(二六・オ)

414 あはれけに御法の末を聞きこともゆつり置けるしるし成けり

けふ御法の末を聞きとは末代まつだいにわれらき

侍る事なり二千余歳よさいのそのかみゆつりを

き給はすは今の身に聞へしやとよろこ

へる心なるへし

【校異】 (二五・ウ) ⑩のこゝろを―ナシ「内」、(二六・オ) ①前大僧正慈

鎮 俊成「内」「承」、②けに―けふ「内」「承」、③聞とは―き

とと云るは「内」、③末代まつだいにわれら―末代の今我等こときの衆生

「内」、④そのかみ―最初に「内」、⑤給はすは―給はすはやは「内」、

⑤身に―衆生「内」、⑤よろこへる心なるへし―悦待る心也「内」、

※(詞書ノ次ノ行、二六・表カラ次ノ歌アリ)―「承」

社司能星

三度うけ三たひ讓し言のはの末の代長くかけて守らん

法花経のゆつりを受持し給ふ菩薩の中にも弥勒は

無明法性の二の中道を守りて劫末の後には必出

世し給はんとの御誓なりされは歌に作者の

意は三度うけ三たひ讓し末の代長く守らんと

云へるは天竺大唐日本迄は三たひ也尔あるに此国は

遮那天照縦横の応用印門の地なれば根本神国

の一切衆生の生死の二法を守り給ふ其御化導を

たすけんためにとて都率天上に飛行すと

いへる今の小禪師の宮といはへり

寂蓮

※(コノ後ニ 414 番歌続ク)「承」

忘るなどいひても袖はしほれけん跡とむへき此世ならねは

仏勅をわすれす未代までもよくたもつ衆

生をすくひ侍れとの給ひなからも瓔珞細

栗の御袂のしほれけめと思ひかへし奉るなり (二六・ウ)

【校異】

(二六・オ) 集付ナシ―新後撰「内」、⑧袖はしほれけん―袖やしほれけん「内」「承」、⑨までもよくたもつ―まてにたもちて「内」、

⑩なからも―なからもさこそは「内」、(二六・ウ) ①栗の―輓の

「内」軟の「承」、①しほれけめと―しほれ侍りけめとそのかみを

「内」、①奉るなり―奉る心敷「内」

如<sub>コトクセシノチヨクノマサニツブサニキヤウス</sub>世尊勅<sub>ヘン</sub>当<sub>ニ</sub>具<sub>ニ</sub>奉行<sub>ニ</sub>のこころを

俊成

みたひなてし契し君の勅なればけふまで誰もその示教利喜

頂をなてしねん比にゆつり給ひし仏勅なれ

はこそいまの世までも退転せず衆生に示

教利喜し侍るとなり

【校異】

(二六・ウ) ②のこころを―ナシ「内」、③俊成―慈鎮「内」「承」、④なてし―なて、「内」「承」、⑤なてし―なて、「内」「承」、⑦

侍る―侍れ「内」

多宝仏塔還<sub>タホウブツタウカヘツテ</sub>可<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>故<sub>ノ</sub>のこころを

前大僧正慈鎮

大そらにひらけし宿の扉をはあけし聖や又もどつらん

迹門法師品のをはりに靈鷲山の虚空に湧

(二七・オ)

現せし塔の扉をは積尊みつからのほつてあけ  
給へり今又虚空より靈山へ帰り給へは塔

の扉をはもとのことく仏のとち給ふらんとい

ふこころ敷

【校異】

(二六・ウ) ⑧多宝仏塔―ナシ「内」、⑧のこころを―ナシ「内」、

⑨前大僧正慈鎮―ナシ「内」、⑩ひらけし―ひらきし「内」「承」、

⑩とつらん―さしけん「承」、(二七・オ) ①迹門―迹門の「内」、

①靈鷲山―靈山「内」、①湧現―現「内」、②積尊―積迦仏「内」、

②のほつて―のほりて「内」、③給へり―給へは「内」、③虚空―

空「内」、④給ふらん―給しらん「内」

各還<sub>ヲノクヘカリユフホドニ</sub>ニ本土<sub>ニ</sub>のこころを

諸人の帰る光はうせはてその木のもとやさひしかるらん

宝塔の戸をひらかんためとて十方世界に

わたらせ給ふ積尊の分身の仏をあつめ給

ひしに今又塔の戸をとち給へは諸仏を

のく本土にかへらせ給ふ故にさこそ雲の

うへもさひしく侍らんといへり木のもとは

分身のためとなし給ひし宝樹下のこ

【校異】

(二七・オ) ⑥のこころを―ナシ「内」、⑦うせはて―う消はて、「内」きへはて、「承」、⑦かるらん―かりけん「内」、⑧ためとて

―ためにとて「内」、⑨積尊―積迦仏「内」、⑩諸仏―諸仏も「内」、

(二七・ウ) ①本土―本土<sub>土</sub>「内」、③ためと―ために「内」、③宝樹

下―宝樹のもと「内」

## 訳和歌集五

薬王品  
ヤクワウホン而ニツカラ自燃レ身のこゝろを説給ひける

前大僧正慈鎮

ともし捨し其身も友に帰りにきかへるもともすむくひならずや  
 薬王菩薩やくわうぼさつむかし日月淨明にちげくわちじやうみやうじやくみょう徳仏と申せし  
 仏の世に出ては喜見菩薩と申せしに彼かの仏  
 ならひに法花経を供養し奉らんかため  
 身をたき臂ひぢをともし給へり喜見の所化しよげの  
 衆生我師しゆじやうわかしの喜見臂きけんひぢを焼尽して不具ふぐに

(一・ウ)

成給ふとてなけしに喜見ちかひ給ひし  
 やうはわかねかふ処ところむなしからすは兩臂りやうひも  
 とのことくならんとの給ひしにやかてもとのこ  
 とく二の臂ひぢいてきたりされは今の哥にと  
 もし捨すてしその身ももとに帰りにきといへり  
 かやうにある事も喜見の無二の誓願せいげんなれ  
 はともすむくひといへり

## 【校異】

- (一・オ) ①訳和歌集五―ナシ「内」法花訳和集五「承」、③燃ネンス  
 ―燃トモス「承」、③のこゝろを説給ひける―ナシ「内」、④前大僧正  
 ―ナシ「内」、⑤捨し―てし「承」、⑤友に―本に「内」「承」、⑤  
 ともす―ともに「内」、⑥と申せし仏の―の「内」、⑦出ては―出  
 て「内」、⑧ために―ため也「内」、⑨ともし―焼「内」、(二・ウ)  
 ①喜見―喜見菩薩「内」、①給ひしやうは―給ふやうに「内」、③

(二七・ウ、五行目十行目まで余白)

(訳和五・一・オ)

420

の給ひしに―の給ふに「内」、④きたり―きけり「内」、⑤その―  
 ナシ「内」、⑤帰りにき―かへる「内」、⑥なれは―故なれは「内」、  
 ⑦ともすむくひといへり―ともすもむくひなれはと云り「内」  
 従二位家隆

さまくにかほりし袖にもゆる火の光やつみに有明の月  
 彼大士かのだいし身を焼しときまつ天衣てんえを身にまつへ  
 もろくのかんはしき油あぶらをのみてその後や  
 き侍れはかほりし袖にもゆる火といへり光  
 はつみに有明の月とは焼身せうしん焼骨せうこつの行ぎやうに  
 よりてはては仏になり給ひしといふ心歎

(二・オ)

## 【校異】

- (二・ウ) ⑧従二位―ナシ「内」、⑩まつへ―まとへ「内」、(二・  
 オ) ①かんはしき―かうはしき「内」、②といへり―とは云り「内」、  
 ②光は―光や「内」、③焼身せうしん焼骨せうこつの行ぎやうによりて―此焼身臂しやうしんひの行ぎやう  
 によつて「内」、④給ひしといふ心歎―給へしと云心なり「内」  
 是真精 進是名三真 法供ニ、養如来の心  
 院御製

421

燕もんある軒のきはの夕日影ゆふひかげきて柳やなぎにあをき庭の春風  
 この文なをは諸仏同讚の文と名つきたり喜見きけん  
 菩薩せうしん焼身せうしんの行ぎやうをたて給ひし時十方の  
 諸仏影しよぶつかげ向むかして真の精進まことしんじん実の供養じゆぎやうなり

(三・ウ)

とほめ給ふなりいまの哥に燕あめあるとは燕  
 はさへつるものなれは諸仏のほめ給ふをたと  
 へていへりさて軒のきはの夕日影ゆふひかげきゆるとは身  
 を焼やきつくす事なり柳やなぎにあをき春風とは

冬枯の柳の春はもえいつることく菩薩の  
焼ける身のもとのごとくになるといふ心なるへし

【校異】 (二・オ) ⑤如來の心を―と云心を「内」、集付ナシ―風雅「内」、  
⑦ある―なく「承」、⑦あをき―あふきを「内」、⑧文―文字「内」、  
⑧たり―侍る「内」、⑨菩薩―菩薩の「内」、⑩精―進実の―精進  
の行真実の「内」、(二・ウ) ①とは―は「内」、①燕は―めは「内」、  
③さて―ナシ「内」、③きゆる―きえて「内」、④焼つくす―つき  
つくし給ふ「内」、⑤柳の春はもえいつることく―柳の春風に本の  
ことく萌出ることく「内」、⑥いふ心なるへし―云なるへし「内」  
最為「第二」のころを説侍りける

慈鎮

星のなかにさやけき月の光よりさしてそしるき十のたとへは

此の品に十のたとへをあけて法花経の諸経に  
すくれたる事をのへたり一切諸水の中には  
大海すくれ諸山の中には須弥山すくれ  
衆星の中には月天子すくれ三光の中に  
は日天子すくれ諸王の中には輪王すくれ  
卅三天の中には帝尺すくれ一切衆生の中  
には梵天は父たり小聖の中には辟支仏す  
くれ三乘の中には菩薩第一諸聖の中に  
は仏を第一とするかことく此経すくれたりと  
いへり今の哥は月のたとへなり

【校異】 (二・ウ) ⑦のころを説侍りける―ナシ「内」、⑨光より―影よ  
りも「内」、⑨たとへは―〇「内」、⑩品に―品には「内」、(三・

(三・オ)

オ) ①一切―には一切の「内」、③衆星―星「内」、③④三光  
く日天子すくれ―ナシ「内」、⑥梵天―梵天王「内」、⑥すくれ―  
第一「内」、⑦諸聖―又諸聖「内」、⑧此経―此法花経「内」、⑨  
今の哥は月のたとへなり―今は月の譬を云り「内」  
如二寒者得レ火のころを  
寂蓮

(三・ウ)

谷水の峯の嵐を忍ひきて法の薪に逢そ嬉しき

これはそこに千歳給仕の事を思て法

花経の薪にあふうれしといへる歎

【校異】 (三・オ) ⑩のころを―ナシ「内」、(三・ウ) 集付ナシ―新拾遺

「内」、②谷水の―谷の水「内」「承」、④あふうれしといへる歎―

あへるうれしとなり「内」

定家

424 今そしる冬の霜夜の埋火に花の御法の春のころを

【校異】 (三・ウ) 埋火―埋火「内」

母の周忌に法花経をみつから書て巻々

のころをよみてへうしの絵にかゝせけるに

七巻のころ冬によせて

むかはれよ木の葉しくれし冬の夜をはくゝみたてし埋火の本  
まへの哥はさむき夜に炉火のもとに侍りて  
八寒のくるしき悪道も法花経の薪にあふ  
(四・オ)

て氷とけ風をふせかましと思ひしりたるよし  
なり後の哥は母の追孝のときよみ侍れば  
むかはれよといひはくくみ立しなとゝいへり

【校異】

(三・ウ) ⑦⑨〔詞書〕―ナシ「内」、(四・オ) ①まへの哥はさ

むき夜に―冬の夜に「内」、①炬火―埋火「内」、②法花経―法花

「内」、②あふて―逢ては「内」、④後の―殊後の「内」、④母の

―作者亡母の周忌に当て「内」、④とき―時に「内」、⑤などゝい

へり―と云るなるへし「内」

如二裸 者得レ衣一のこゝろを

寂蓮

426

今そ思ふかた岡山の旅人も身をつくしけるむらさきの袖

此哥作者の本意はかりかたしされ共かた岡

山の旅人とは昔達磨大師此国にわたり

かた岡にて聖徳太子にあひ奉り哥をよ

みかはし給へりその時太子の上をめしたる

紫の御衣をぬき給ひて彼飢人にうちき

せ奉り給へる風情なりしを裸者の衣を

得たるかことしといひなし侍る歟

(四・ウ)

【校異】

(四・オ) ⑥のこゝろを―ナシ「内」、⑧思ふ―しる「内」、⑨哥―

ナシ「内」、(四・ウ) ②太子―聖徳太子「内」、③ぬき給ひて―ぬ

きて「内」、④給へる風情なりしを―給へり達磨大師其時うへつか

れ給へる風情なりしを「内」、⑤得たるかことしと―得たるに「内」

如二渡 得レ船一のこゝろを

源三位頼政

427

かの岸にねかふ心やしるからん嬉しくよする法の舟哉

【校異】

(四・ウ) ⑥のこゝろを―ナシ「内」、⑧舟哉―舟人「内」

懷尋法師

428

うき世をしわたすときは蟹を舟法に心をかけぬ日そなき

【校異】 (四・ウ) 集付ナシ―金葉「内」、⑩世―身「承」

前大僧正慈鎮

(五・オ)

429

つなて縄くるしき海をよそにみて憂世を渡す淀の柴舟

三首のこゝろあらはなり

【校異】 (五・オ) ①前大僧正―ナシ「内」、②柴舟―川舟「内」、河舟「承」、

③のこゝろあらはなり―おなし「内」

定家

430

身にしめてかき置法の花の色のかさ浅さはしる人もなし

これは若人得レ聞 此法花経 若 自 書若 教

レ人書 所得 功德 以 二 仏 智 恵 一 籌 二 量 多 少 二 不

レ得 其 辺 といふ文をよめり身にしめてとは

経を聞て身心にしめて其後かき侍らん

功德はかりかたしといふこゝろ歟

【校異】 (五・オ) ⑤色の―色に「内」、⑧といふ文をよめり身にしめてと

は―此文を読むか心あらはなり但五もしは「内」、⑨其後―其後に

「内」、⑩いふこゝろ歟―いへる歟「内」

※(430番歌ノ後ニ、一首アリ)―「内」

尺是女身

蓮子内親王

新勅 まれらなる法を聞つる道しあれば憂を限と思ひぬるかな

みまかりける後結縁経供養しけるに即

往安楽世界のこゝろを

瞻西上人

431

昔みし月の光をしるへにてこよひや君かにしへ行覽

にしは月のゆくかたなれば此世にて見なれし  
月をしるへとして安楽世界に往詣し  
侍らんといふ心にてや此月に心の月輪  
のこゝろもあるへき歟

【校異】

(五・ウ) ①みまかりける一人のみまかり侍りける「内」、集付ナ  
シ―新古今「内」、⑦にてや此月に心の―にや心「内」

慈鎮

夕附日さすや岡へに露消てにしにひらくる女郎花哉

これは若女一人聞是經典如レ説修 行於 (六・オ)  
此命終 即往安楽世界阿弥陀仏大菩  
薩衆 困遶 住処一生蓮花中宝座之上

といへる文をよみ給へるなるへし夕附日を弥  
陀の撰取の光明になすらへ露きゆるは仏日  
にあたりて女人の罪業消失するなり

にしにひらくる女郎花は女身を捨すして  
浄土に往詣するといふこゝろなるへし

【校異】

(六・オ) ①これは―ナシ「内」、④いへる―云「内」、④給へるな  
るへし―給へり「内」、④夕附日を―夕附日の「内」、⑤なすらへ

―なすらへ「内」、⑤きゆるは―消てとは「内」、⑥消失するなり  
―きゆる也「内」、⑧往詣―往生「内」

俊成

頼むかな露の命の消るときはちすの上に移し置なり

【校異】

ナシ  
廣宣流布のこゝろを

(六・ウ)

法の花ちらぬ宿こそなかりけれこしの高根の山おろしの風  
我滅度後々五百歳 中廣宣流布於閻浮  
提無レ令断絶といふ文をよめりあらはなり

【校異】

(六・ウ) ①のこゝろを―ナシ「内」、集付ナシ―玉葉「内」、③こ  
しの―鶯の「内」わしの「承」、④後々―後今「内」、④於―於「承」、

法印実性

山桜匂ひを風にまかせてそ花の盛をよそにしらす

【校異】 (六・ウ) 集付ナシ―新千載「内」

病 即消 滅不老不死のこゝろを  
慈鎮

法の風に秋の霧さへ晴のきてしほむ花なきませのうち哉  
此経則為閻浮提人病之良薬 若人有  
レ病得レ聞 是経一病 則消 滅不老不死といふ  
文なり霧を病にたとふる事ある故なり

【校異】

(六・ウ) ⑧のこゝろを―ナシ「内」、⑩晴のきてしほむ―晴つき  
てしつむ「内」、(七・オ) ①之―ナシ「内」、③文なり―文をよみ

侍り「内」、③事ある―ナシ「内」

付記 本稿の翻刻について御許可を賜りました国文学研究資料館およ  
び内閣文庫に深甚の謝意を申し上げます。

(うちの ゆうこ・西南学院大学非常勤講師)